



2006年度決算説明会
決算概要と業績予想

 **SUMITOMO CHEMICAL**

社長 米倉 弘昌

2007年5月

2006年度決算概要

2006年度の業績

売上高、全段階の利益で過去最高を記録

【連結】	2005年度	2006年度	前期比
売上高	1兆5,566億円	1兆7,900億円	+15.0%
営業利益	1,208億円	1,396億円	+15.6%
経常利益	1,411億円	1,580億円	+12.0%
純利益	907億円	939億円	+3.5%
特殊要因を除く 実質ベースの純利益	(714億円)	(752億円)	(+5.3%)

年間配当金(1株当たり)

2005年度「10円」 ➡ 2006年度「12円」

11月公表の業績予想との比較

【連結】

	2006年度 (公表予想)	2006年度 (実績)	達成率
売上高	1兆7,850億円	1兆7,900億円	100%
営業利益	1,450億円	1,396億円	96%
経常利益	1,500億円	1,580億円	105%
純利益	910億円	939億円	103%

2006年度 売上高分析

(単位: 億円)

	2005年度	2006年度	対前期比
基礎化学	2,524	3,140	+616
石油化学	4,861	5,391	+530
精密化学	790	909	+119
情報電子化学	2,292	2,664	+372
農業化学	1,862	1,983	+121
医薬品	2,331	2,345	+14
その他	906	1,468	+562
全社合計	15,566	17,900	+2,334

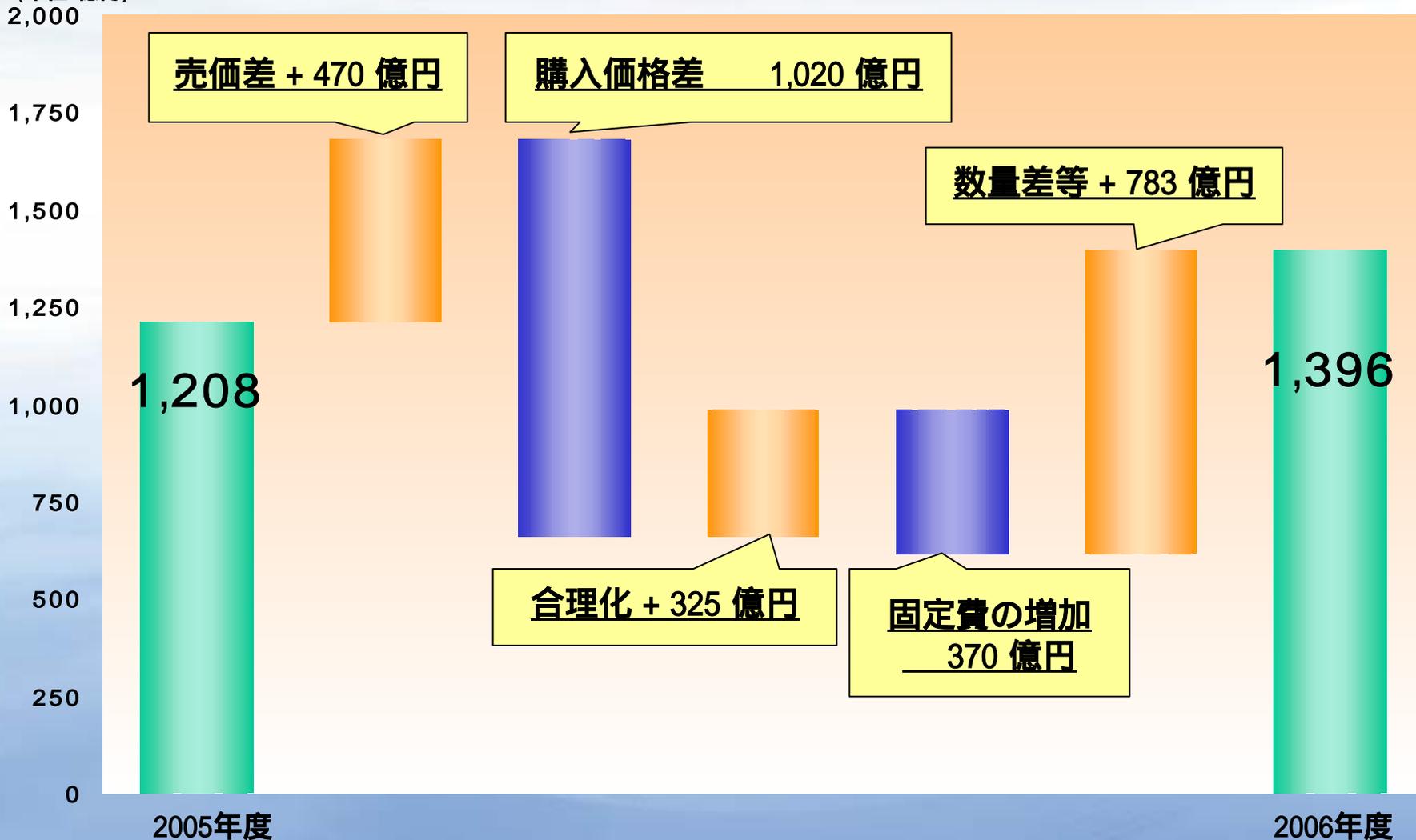
売価差	数量差
415	201
585	55
25	94
450	822
30	91
135	149
-	562
470	1,864

海外売上高	6,110	7,478	+1,368
海外売上高比率	39%	42%	+3%

2006年度 営業利益分析

2005年度 1,208 億円 2006年度 1,396 億円 (+188億円)

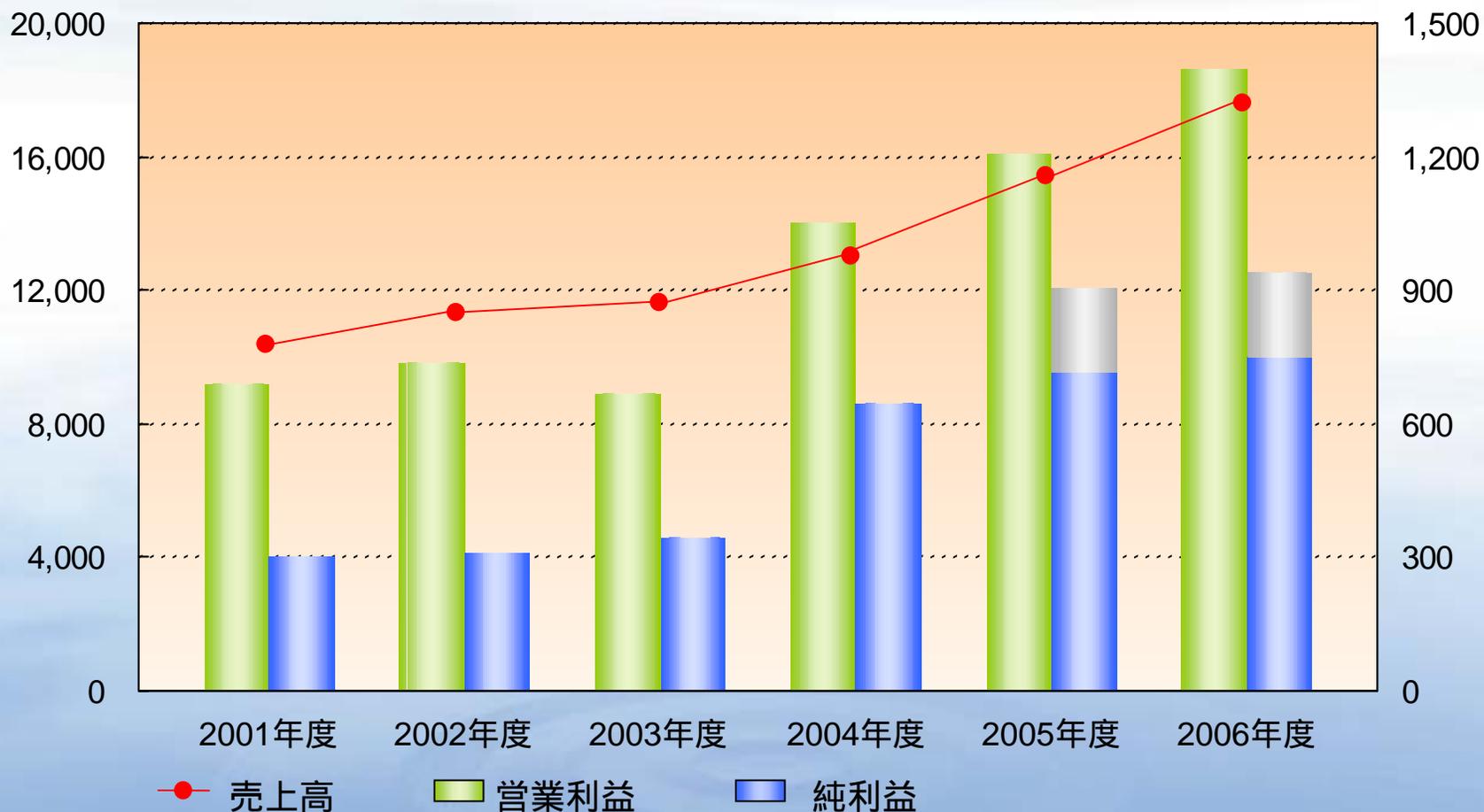
(単位:億円)



連結業績推移

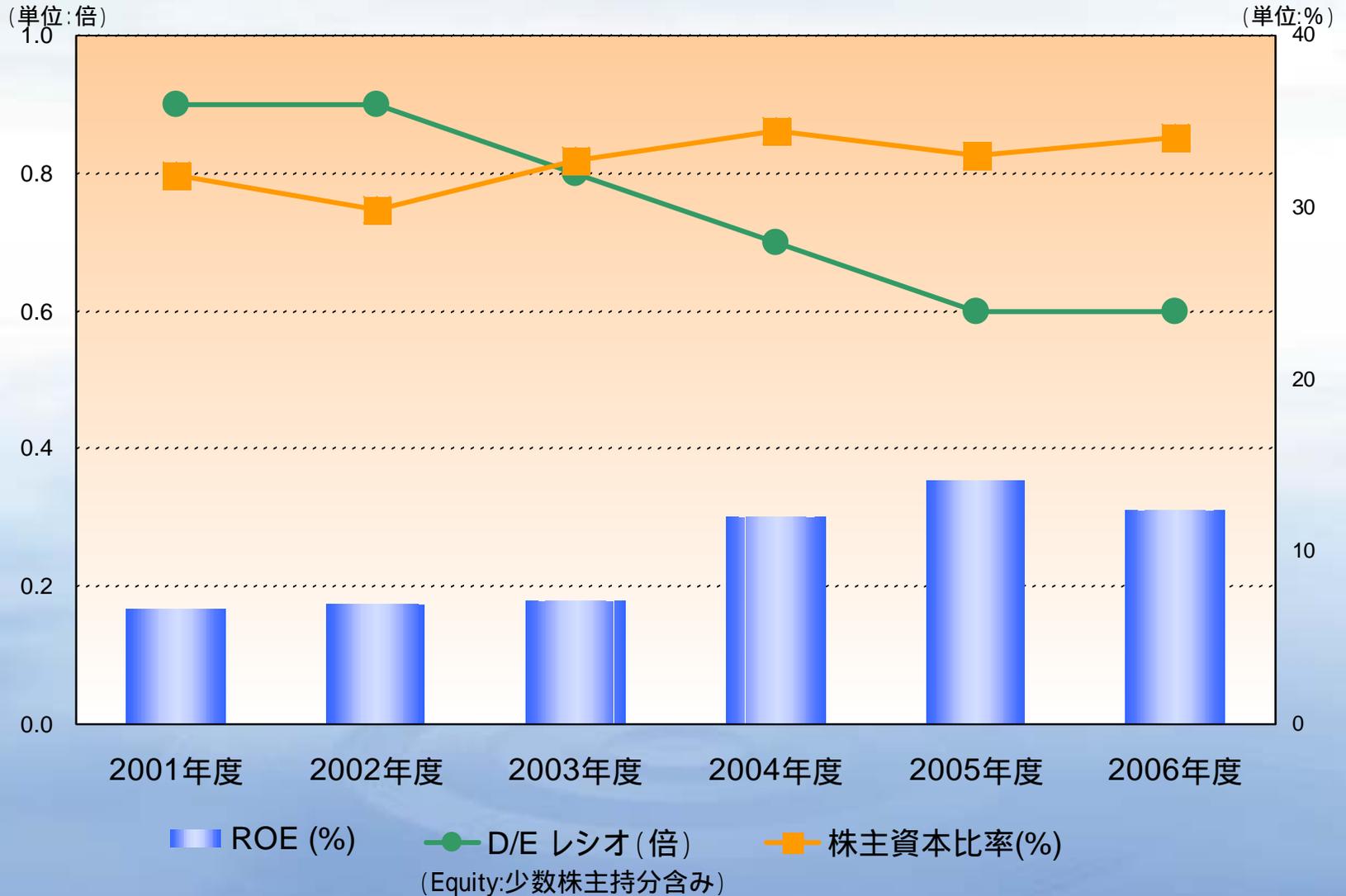
(単位:億円)

(単位:億円)



一時的要因による利益項目(有価証券売却等)

連結経営指標推移



2004～2006年度 中期経営計画の達成状況

2006年度の中期計画目標を昨年に引き続き達成

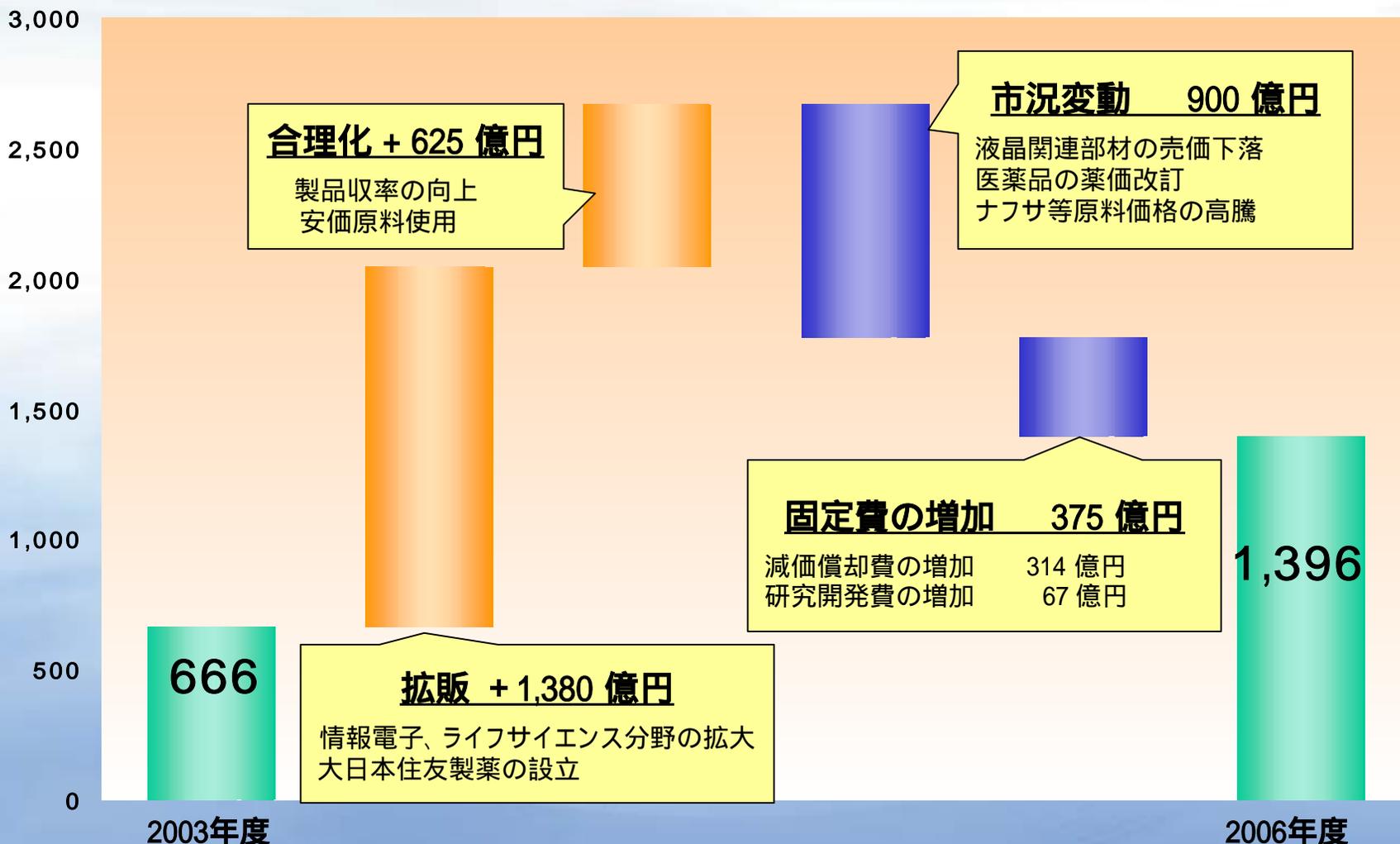
【 連結 】

	2006年度 (計画目標)	2006年度 (実績)	達成率
売上高	1兆3,300億円	1兆7,900億円	135%
営業利益	1,200億円	1,396億円	116%
純利益	650億円	939億円	144%
特殊要因を除く 実質ベースの純利益	(650億円)	(752億円)	(116%)

2004～2006年度 中期経営計画 営業利益分析

2003年度 666 億円 2006年度 1,396 億円 (+730億円)

(単位:億円)



セグメント別主要プロジェクト (2004年度～)

	実績	計画
基礎化学	<ul style="list-style-type: none"> - シンガポール MMA 第2期増強 - カプロラクタムのデボトルネック増強 	<ul style="list-style-type: none"> - シンガポール MMA 第3期増強
石油化学	<ul style="list-style-type: none"> - プロピレングリコール新設 (千葉) - ポリプロピレン生産体制再編(千葉) - EPPE上市 (日本) - LLDPEのPPへの転換 (シンガポール) - メタセシスプラント新設 (シンガポール) 	<ul style="list-style-type: none"> - ラービグ計画 (サウジアラビア) 2008年央完成 - PPコンパウンド事業拡大
精密化学	<ul style="list-style-type: none"> - 住化ファインケムを住友化学へ統合(日本) 	
情報電子化学	<ul style="list-style-type: none"> - 偏光フィルム能力増強 (愛媛、韓国、台湾) - カラーフィルター能力増強 (韓国) - PES能力増強 (愛媛) - 太陽電池事業での合併会社設立 (米国) 	<ul style="list-style-type: none"> - 大型液晶テレビ向け偏光フィルム能力増強 (愛媛、韓国、中国)
農業化学	<ul style="list-style-type: none"> - メチオニン能力増強 (愛媛) - 新製品上市 (日本、海外) [9製品] - オリセット事業拡大 	<ul style="list-style-type: none"> - 農業、生活環境剤の新製品上市 (日本、海外) [20化合物の商業化を予定] - 住化武田農業の完全統合
医薬品	<ul style="list-style-type: none"> - 大日本住友製薬が発足 - PET検査用診断薬上市 (日本メジフィジックス) 	<ul style="list-style-type: none"> - 統合失調症診断薬等の新製品上市

2007年度業績予想概要

2007年度の業績予想

【連結】	2006年度	2007年度	前期比
売上高	1兆7,900億円	1兆9,100億円	+6.7%
営業利益	1,396億円	1,300億円	6.9%
経常利益	1,580億円	1,300億円	17.7%
純利益	939億円	700億円	25.5%
特殊要因を除く 実質ベースの純利益	(752億円)	(700億円)	(6.9%)

2007年前提 115円/ドル ナフサ 56,000円/k!

年間配当金(1株当たり)

2006年度「12円」

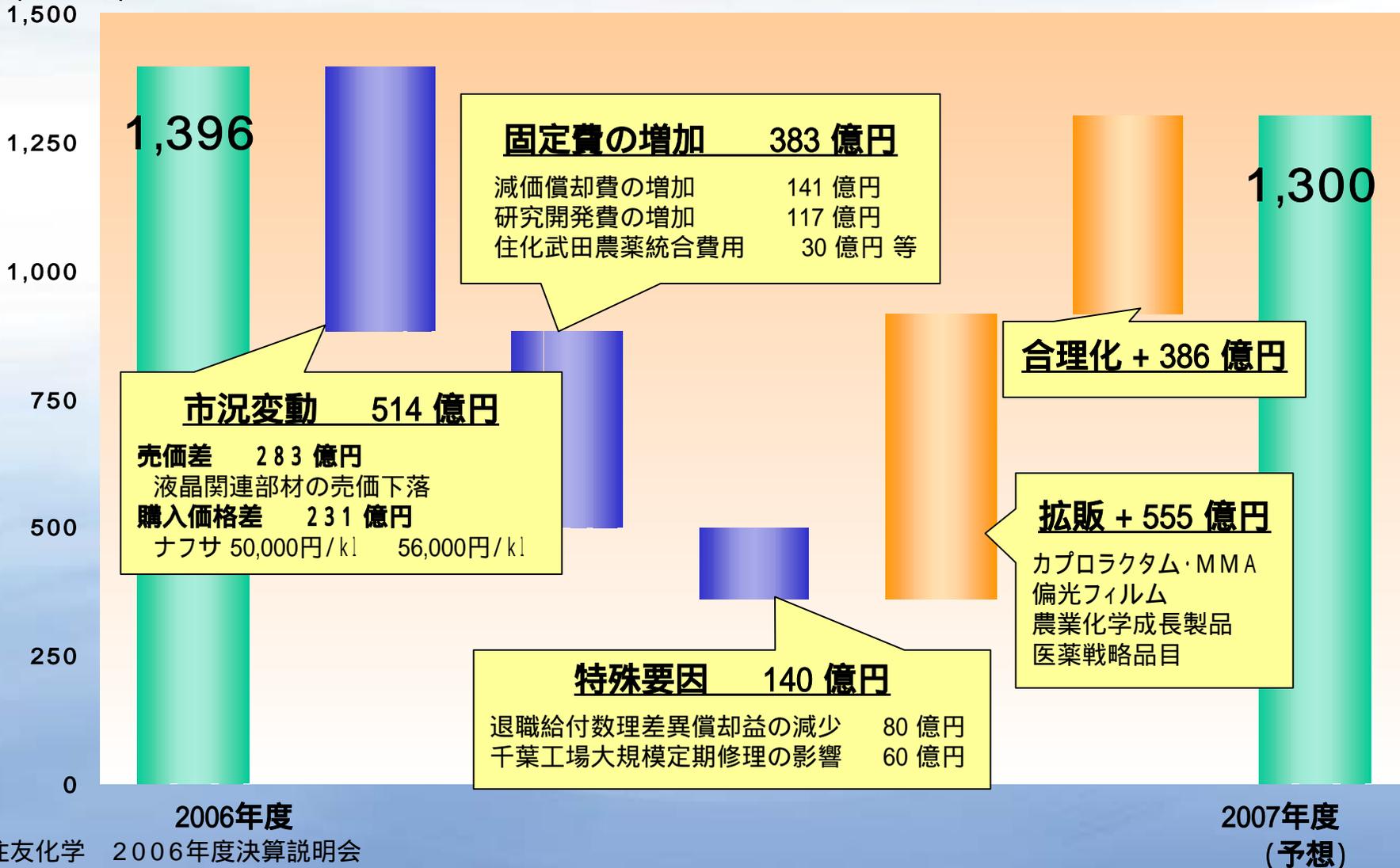
2007年度「12円」

(予想)

2007年度 営業利益分析

2006年度 1,396 億円 2007年度 1,300 億円 (96 億円)

(単位:億円)



2006年度

2007年度

(予想)

部門別売上高・営業利益

(単位:億円)

		2006年度	2007年度	前期比	主な営業利益増減要因
基礎化学	売上高	3,140	3,100	1%	カプロラクタム・MMAの販売増加
	営業利益	135	180	+33%	
石油化学	売上高	5,391	5,800	+8%	原料価格の高騰 千葉工場定期修理に伴う影響
	営業利益	236	110	53%	
精密化学	売上高	909	900	1%	原料価格の高騰
	営業利益	131	120	8%	
情報電子化学	売上高	2,664	3,350	+26%	拡販と合理化による利益率の向上
	営業利益	35	160	+357%	
農業化学	売上高	1,983	2,000	+1%	成長製品の拡販 住化武田農薬合併関連費用の発生
	営業利益	233	190	18%	
医薬品	売上高	2,345	2,450	+4%	戦略製品の拡販 研究開発費の増加 退職給付数理差益の減少
	営業利益	562	510	9%	

2007年度の業績予想

【連結】	2006年度	2007年度	前期比
売上高	1兆7,900億円	1兆9,100億円	+6.7%
営業利益	1,396億円	1,300億円	6.9%
経常利益	1,580億円	1,300億円	17.7%
純利益	939億円	700億円	25.5%
大型特別利益を除く 実質ベースの純利益	(752億円)	(700億円)	(6.9%)

2007年前提 115円/ドル ナフサ 56,000円/k!

年間配当金(1株当たり)

2006年度「12円」

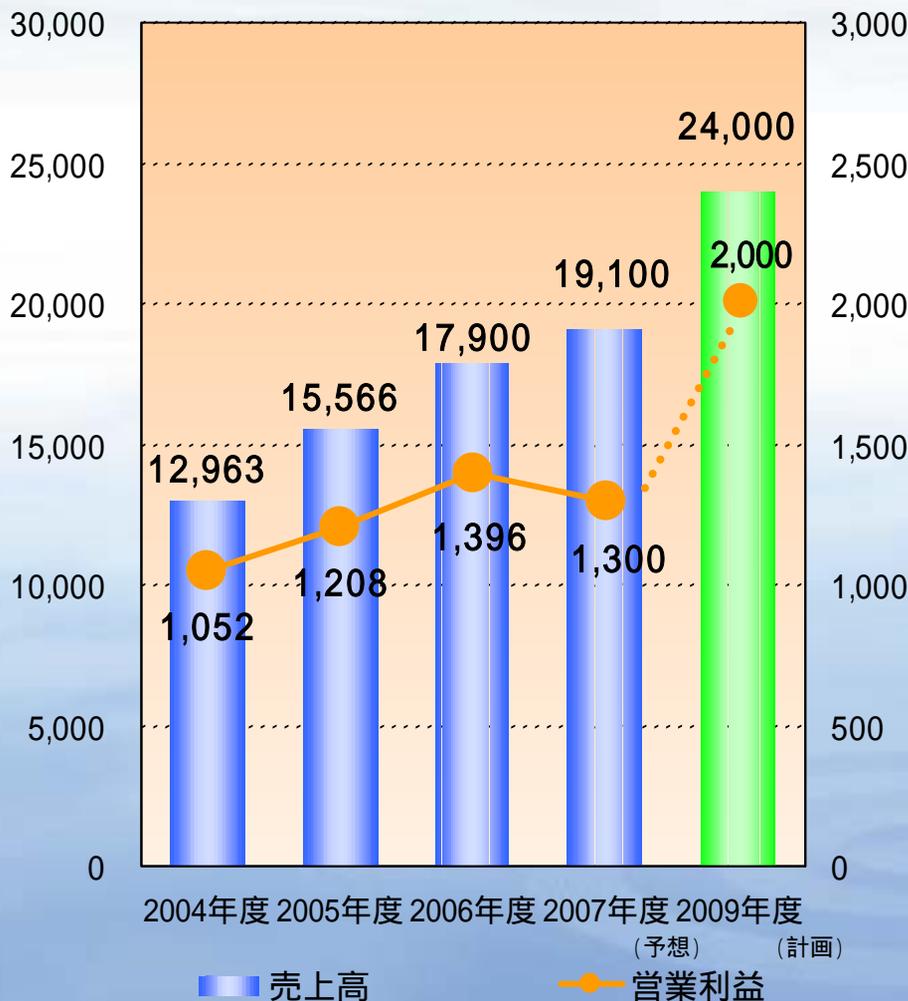
2007年度「12円」

(予想)

中期計画達成への道程

全社業績推移

(単位:億円)



基礎化学

シンガポール 中期計画

カゴラクタム等の競争力強化

石油化学

EPPEの拡販

メセシス、LLDPEプラントのPPへの転換効果の最大化

PPコンパウンド計画の推進

精密化学

レゾルシン・医薬化学品の競争力強化

情報電子化学

液晶関連部材の拡販・合理化によるコスト競争力強化

半導体プロセス材料やスーパーエンジニア等の収益拡大

太陽電池用材料など次世代事業の発掘

農業化学

成長製品の拡販

住化武田農薬の完全統合によるシナジー効果の実現

医薬品

大日本住友製薬における戦略4製品の拡販

イルベサルタンなどの新規製品の早期戦力化

PET事業の拡大

研究開発

高分子有機EL、電池材料部材等の早期戦力化と

事業化

主要経営課題の進捗状況

ラービグ計画の進捗状況

予定通り 2008年央設備完成へ向け順調に進捗

現在の状況

基礎工事 ほぼ完了
機器の据付や配管の溶接が順調に進捗
建設従事者 25,000名
(ピーク時には 35,000名)

今後のスケジュール

2008年央 設備完成
2008年秋 商業運転開始

情報電子部門の収益改善

2006年度 35 億円 2007年度 160 億円 (+125 億円)

2006年度の状況

想定以上の販売価格の下落
新規製品量産時の収率の低下
試作研究費の増加
愛媛工場新プラント稼動遅れ

業績改善への取組

生産収率の改善
生産スピードの増速
製品の広幅化による面取り効率の向上
より高機能、高付加価値な新製品の開発

グローバルカンパニーとしてのさらなる飛躍

2007-2009年度

高収益体質の確立と持続する成長の実現

グローバルカンパニー
としてのさらなる飛躍

2004-2006年度

事業規模拡大と利益成長

真のグローバルケミカル
カンパニーを目指して

2001-2003年度

成長基盤確立

新たな成長軌道を
目指して



SUMITOMO CHEMICAL

注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。